

科目名	情報処理試験 特別講座Ⅲ(春向) 応用情報技術者試験					
科目名(英)						
単位数	5単位	時間数	76時間	担当者	國房 篤子	
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当	
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年					
授業概要	応用情報技術者試験の問題を通して、システムエンジニアに必要な知識や技能を身に付ける。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				テクノロジー系の知識を身に付け、午前・午後問題を解けるようになる。
	○	○				マネジメント系の知識を身に付け、午前問題を解けるようになる。
	○	○				ストラテジ系の知識を身に付け、午前問題を解けるようになる。
テキスト・教材 参考図書	過去問題(プリント)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	ミニテスト(H30秋～R02秋の問題)、午後問題の概要			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習	
	2	R03秋の午後問題の間1を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	3	R03秋の午後問題の間3を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	4	R03秋の午後問題の間4を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	5	R03秋の午後問題の間5を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	6	R03秋の午後問題の間6を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	7	R03秋の午後問題の間7を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	8	R03秋の午後問題の間8を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	9	R02秋の午後問題の間1を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	10	R02秋の午後問題の間3を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	11	R02秋の午後問題の間4を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	12	R02秋の午後問題の間5を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	13	R02秋の午後問題の間6を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	14	R02秋の午後問題の間7を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	15	R02秋の午後問題の間8を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	16	模擬試験を解く			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	17	模擬試験を解く			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	18	模擬試験を解く			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	19	模擬試験を解く			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	20	模擬試験の解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	21	模擬試験の解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	22	模擬試験の解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	23	模擬試験の解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
	24	H30秋の午後問題の間1,5を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習	
25	H30秋の午後問題の間3を解き、解説			授業で解いた問題を理解し解けるまで復習		

	26	H30秋の午後問題の問4,7を解き、解説	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
	27	H30秋の午後問題の問6を解き、解説	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
	28	模擬試験を解く	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
	29	模擬試験を解く	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
	30	模擬試験を解く	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
	31	模擬試験を解く	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
	32	模擬試験の解説	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
	33	模擬試験の解説	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
	34	模擬試験の解説	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
	35	模擬試験の解説	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
	36	H30春の午後問題を解く	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
	37	H30春の午後問題を解く	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
	38	H30春の午後問題の解説	授業で解いた問題を理解し解けるまで復習				
		※学習する内容・分野の順番は、4月1日時点での予定					
<b>評価方法</b>	(1)授業の中で模擬試験、ミニテストを数回実施する。(2)定期試験(国家試験)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(国家試験)	◎	◎				80%
	模擬試験とミニテスト	◎	◎				20%
<b>履修上の注意</b>	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	情報処理試験 特別講座Ⅲ(春向) 基本情報技術者試験				
科目名(英)					
単位数	5単位	時間数	76時間	担当者	中西 伸二、新納 美佳、滝石 展行、松尾 康徳、三屋 恵一郎、石田 典雅
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当(全員)
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年				
授業概要	基本情報技術者試験試験の合格を目標に、主に午後問題の解説を行う。				
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	目標				
	基本情報技術者試験試験の合格を目標とする。				
テキスト・教材 参考図書	基本情報技術者試験試験過去問題(IPAのホームページより) 模擬試験				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	基本情報技術者試験 過去問対策(R01年秋)-1			
	2	基本情報技術者試験 過去問対策(R01年秋)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	3	基本情報技術者試験 過去問対策(R01年秋)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	4	基本情報技術者試験 過去問対策(H31年春)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	5	基本情報技術者試験 過去問対策(H31年春)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	6	基本情報技術者試験 過去問対策(H31年春)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	7	基本情報技術者試験 模擬試験(Itec午後)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	8	基本情報技術者試験 模擬試験(Itec午後)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	9	基本情報技術者試験 模擬試験(Itec)-1 解説			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	10	基本情報技術者試験 模擬試験(Itec)-2 解説			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	11	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年秋)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	12	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年秋)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	13	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年秋)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	14	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年春)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	15	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年春)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	16	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年春)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	17	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC午前)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	18	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC午前)-2			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	19	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC午後)-3			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	20	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC午後)-4			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	21	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC)-1 解説			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	22	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC)-2 解説			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	23	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC)-3 解説			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
	24	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC)-4 解説			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと
25	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年秋)-1			前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	

	26	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年秋)-2	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	27	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年秋)-3	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	28	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年春)-1	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	29	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年春)-2	H30年度の問題を、もう1度解いておくこと				
	30	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年春)-3	H29年度の問題を、もう1度解いておくこと				
	31	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC午前)-1	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	32	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC午前)-2	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	33	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC午後)-3	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	34	基本情報技術者試験 模擬試験(TAC午後)-4	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	35	基本情報技術者試験 模擬試験(Itec)-1 解説	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	36	基本情報技術者試験 模擬試験(Itec)-2 解説	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	37	基本情報技術者試験 模擬試験(Itec)-3 解説	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
	38	基本情報技術者試験 模擬試験(Itec)-4 解説	前回解いた問題を、もう1度解いておくこと				
		※授業内容は、4月1日時点での予定					
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)定期試験実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	平常点(ミニテスト)	◎	◎				20%
履修上の注意	自宅で必ず復習(今日解いた問題の見直し)を行うこと。 出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	情報処理試験 特別講座Ⅲ(春向) 情報処理安全確保支援士試験対策					
科目名(英)						
単位数	5単位	時間数	76時間	担当者	國房 篤子	
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当	
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年					
授業概要	情報処理安全確保支援士の過去問題を通して、エンジニアに必要なセキュリティに関する知識や技能を身に付ける。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				認証とアクセスコントロールについて過去問題で知識を身につけ、関連問題を解くことができる。
	○	○				サーバセキュリティについて過去問題で知識を身につけ、関連問題を解くことができる。
	○	○				電子メールセキュリティについて過去問題で知識を身につけ、関連問題を解くことができる。
テキスト・教材 参考図書	過去問題					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	認証基礎・SSO(AP_H20春PM I_Q3)			出題された用語を復習し、理解を深める	
	2	認証基礎・検疫NW(AP_H22秋_Q9)			出題された用語を復習し、理解を深める	
	3	認証基礎・ICカード(AP_H18春PM I_Q3)			出題された用語を復習し、理解を深める	
	4	認証(SC_H25秋PM I_Q3)			出題された用語を復習し、理解を深める	
	5	認証(SC_H26春PM I_Q3)			出題された用語を復習し、理解を深める	
	6	認証(SC_H27春PM I_Q3)			出題された用語を復習し、理解を深める	
	7	認証(SC_H27秋PM I_Q2)			出題された用語を復習し、理解を深める	
	8	サーバセキュリティ基礎			出題された用語を復習し、理解を深める	
	9	サーバセキュリティ基礎			出題された用語を復習し、理解を深める	
	10	サーバセキュリティ			出題された用語を復習し、理解を深める	
	11	サーバセキュリティ			出題された用語を復習し、理解を深める	
	12	電子メールセキュリティ基礎			出題された用語を復習し、理解を深める	
	13	電子メールセキュリティ			出題された用語を復習し、理解を深める	
	14	電子メールセキュリティ			出題された用語を復習し、理解を深める	
	15	午後 I 解答練習① (H31春)			出題された用語を復習し、理解を深める	
	16	午後 I 解答練習①			出題された用語を復習し、理解を深める	
	17	午後 II 解答練習①			出題された用語を復習し、理解を深める	
	18	午後 II 解答練習①			出題された用語を復習し、理解を深める	
	19	午後 I 解答練習② (R01秋)			出題された用語を復習し、理解を深める	
	20	午後 I 解答練習②			出題された用語を復習し、理解を深める	
	21	午後 II 解答練習②			出題された用語を復習し、理解を深める	
	22	午後 II 解答練習②			出題された用語を復習し、理解を深める	
	23	直近過去問・午後 I 解答練習、見直し (R02秋)			出題された用語を復習し、理解を深める	
24	直近過去問・午後 II 解答練習、見直し (R02秋)			出題された用語を復習し、理解を深める		

	25	直近過去問・午後Ⅰ	解答練習、見直し	(R03春)	出題された用語を復習し、理解を深める		
	26	直近過去問・午後Ⅱ	解答練習、見直し	(R03春)	出題された用語を復習し、理解を深める		
	27	直近過去問・午後Ⅰ	解答練習、見直し	(R03秋)	出題された用語を復習し、理解を深める		
	28	直近過去問・午後Ⅱ	解答練習、見直し	(R03秋)	出題された用語を復習し、理解を深める		
	29	業者模試①・午後Ⅰ	解答練習、見直し		出題された用語を復習し、理解を深める		
	30	業者模試①・午後Ⅰ	解答練習、見直し		出題された用語を復習し、理解を深める		
	31	業者模試①・午後Ⅱ	解答練習、見直し		出題された用語を復習し、理解を深める		
	32	業者模試①・午後Ⅱ	解答練習、見直し		出題された用語を復習し、理解を深める		
	33	業者模試②・午後Ⅰ	解答練習、見直し		出題された用語を復習し、理解を深める		
	34	業者模試②・午後Ⅰ	解答練習、見直し		出題された用語を復習し、理解を深める		
	35	業者模試②・午後Ⅱ	解答練習、見直し		出題された用語を復習し、理解を深める		
	36	業者模試②・午後Ⅱ	解答練習、見直し		出題された用語を復習し、理解を深める		
	37	業者模試・午前Ⅱ	解答練習、見直し		出題された用語を復習し、理解を深める		
	38	業者模試・午前Ⅱ	解答練習、見直し		出題された用語を復習し、理解を深める		
		※学習する分野の内容・順番は、4月1日時点での予定					
評価方法	(1)授業の中で模擬試験、ミニテストを実施する。 (2)定期試験(国家試験)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験(ミニテスト)	○	◎		○		40%
	期末試験もしくは国家試験	○	◎				60%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	情報処理試験 講座Ⅲ(秋向) 応用情報技術者試験						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	國房 篤子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当		
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年						
授業概要	応用情報技術者試験の問題を通して、システムエンジニアに必要な知識や技能を身に付ける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				テクノロジー系の知識を身に付け、午前問題を解けるようになる。	
	○	○				マネジメント系の知識を身に付け、午前問題を解けるようになる。	
	○	○				ストラテジ系の知識を身に付け、午前問題を解けるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	過去問題(プリント)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	R03春の午前問題を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習		
	2	R03春の午前問題を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習		
	3	R03春の午前問題を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習		
	4	R03春の午前問題を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習		
	5	R03春の午前問題を解き、解説-5			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習		
	6	R02秋の午前問題を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習		
	7	R02秋の午前問題を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習		
	8	R02秋の午前問題を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習		
	9	R02秋の午前問題を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習		
	10	R02秋の午前問題を解き、解説-5			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習		
	11	R02春の午前問題を解き、解説-1			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習		
	12	R02春の午前問題を解き、解説-2			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習		
	13	R02春の午前問題を解き、解説-3			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習		
	14	R02春の午前問題を解き、解説-4			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習		
	15	R02春の午前問題を解き、解説-5			授業で解いた問題を理解し覚えるまで復習		
	※学習する内容・分野の順番は、4月1日時点での予定						
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	ミニテスト	◎	◎				40%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	情報処理試験 講座Ⅲ(秋向) 基本情報技術者試験						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中西 伸二、滝石 展行、石田 典雅		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当(全員)		
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年						
授業概要	基本情報技術者試験試験の合格を目標に、主に午後問題の解説を行う。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				基本情報技術者試験試験の合格を目標とする。	
テキスト・教材 参考図書	基本情報技術者試験試験過去問題(IPAのホームページより) 模擬試験						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	基本情報技術者試験 過去問対策(R01年秋)-1					
	2	基本情報技術者試験 過去問対策(R01年秋)-2				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	3	基本情報技術者試験 過去問対策(R01年秋)-3				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	4	基本情報技術者試験 過去問対策(H31年春)-1				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	5	基本情報技術者試験 過去問対策(H31年春)-2				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	6	基本情報技術者試験 過去問対策(H31年春)-3				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	7	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年秋)-1				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	8	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年秋)-2				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	9	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年秋)-3				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	10	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年春)-1				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	11	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年春)-2				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	12	基本情報技術者試験 過去問対策(H30年春)-3				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	13	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年秋)-1				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	14	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年秋)-2				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	15	基本情報技術者試験 過去問対策(H29年秋)-3				前回解いた問題を、もう1度解いておくこと	
	※授業内容は、4月1日時点での予定						
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	平常点(ミニテスト)	◎	◎				20%
履修上の注意	自宅で必ず復習(今日解いた問題の見直し)を行うこと。 出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	情報処理試験 講座Ⅲ(秋向) 情報安全確保支援士試験						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	國房 篤子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	IT系企業にてシステム開発を担当		
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年						
授業概要	情報処理安全確保支援士の過去問題を通して、エンジニアに必要な知識や技能を身に付ける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習: △	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		セキュリティ分野の用語について調べ理解を深め、関連問題を解くことができる。	
	○	○		○		安全確保支援士の午前問題を解答し、出題内容を確認する。	
	○	○				安全確保支援士の午前問題を解答し、知識を身につけ、関連問題を解くことができる。	
テキスト・教材 参考図書	Web情報を参考にする。 過去問題						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	安全確保支援士試験(オリテ)、情報セキュリティ用語調べ①				授業内で調べた用語についてしっかり理解を深める	
	2	情報セキュリティ(攻撃手法)用語調べ②				授業内で調べた用語についてしっかり理解を深める	
	3	情報セキュリティ(攻撃手法)用語調べ②				授業内で調べた用語についてしっかり理解を深める	
	4	情報セキュリティ(暗号技術)用語調べ③				授業内で調べた用語についてしっかり理解を深める	
	5	情報セキュリティ(セキュリティ管理)用語調べ④				授業内で調べた用語についてしっかり理解を深める	
	6	情報セキュリティ(セキュリティ管理)用語調べ④				授業内で調べた用語についてしっかり理解を深める	
	7	情報セキュリティ(セキュリティ技術評価)用語調べ⑤				授業内で調べた用語についてしっかり理解を深める	
	8	情報セキュリティ(セキュリティ対策)用語調べ⑥				授業内で調べた用語についてしっかり理解を深める	
	9	情報セキュリティ(セキュリティ対策)用語調べ⑥				授業内で調べた用語についてしっかり理解を深める	
	10	情報セキュリティ(セキュリティ実装技術)用語調べ⑦				授業内で調べた用語についてしっかり理解を深める	
	11	情報セキュリティ(セキュリティ実装技術)用語調べ⑦				授業内で調べた用語についてしっかり理解を深める	
	12	午前Ⅱ 過去問題解答練習、解説、見直し				授業内で解答した問題を復習し理解を深める	
	13	午前Ⅱ 過去問題解答練習、解説、見直し				授業内で解答した問題を復習し理解を深める	
	14	午前Ⅱ 過去問題解答練習、解説、見直し				授業内で解答した問題を復習し理解を深める	
	15	午前Ⅱ 過去問題解答練習、解説、見直し				授業内で解答した問題を復習し理解を深める	
	※学習する分野の内容・順番は、4月1日時点での予定						
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験(ミニテスト)	○	◎		○		40%
	期末試験	○	◎				60%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	Excel VBA						
科目名(英)	Excel VBA						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	北島 正幸		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	OAインストラクタとしてセミナーを担当		
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年						
授業概要	ビジネスの現場では必須の知識となっているEXCELではあるが、さらに柔軟な表利用を可能にするためにVBAを利用することも増えてきた。今回の授業では関数やマクロでは実現できない機能をVBAを利用し構築していくことを目標とする。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					VBAの記述方法、文法を知り、プログラムを読むことができる。	
		○				VBAを使用した基礎的なモジュールの作成してプログラムが作ることができる。	
		○				入力操作と値の処理を含むプログラムを作ることができる。	
		○				ファイル操作処理を含むプログラムを作ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	よくわかる Microsoft Excel 2019/2016/2013 マクロ/VBA (FOM出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	VBA操作の概要			事前配布した資料を読む		
	2	VBAを使用した基礎的なモジュールの作成① 文法、記述			事前配布した資料を読む		
	3	VBAを使用した基礎的なモジュールの作成② 動作、デバッグ			事前配布した資料を読む		
	4	VBAによる書式の操作			事前配布した資料を読む		
	5	VBAによる書式の操作			事前配布した資料を読む		
	6	入力操作と値の処理① 値の入力と処理			事前配布した資料を読む		
	7	入力操作と値の処理① 値の入力と処理			事前配布した資料を読む		
	8	入力操作と値の処理② 値の出力と保存			事前配布した資料を読む		
	9	入力操作と値の処理② 値の出力と保存			事前配布した資料を読む		
	10	シートの操作			事前配布した資料を読む		
	11	シートの操作			事前配布した資料を読む		
	12	シートの操作			事前配布した資料を読む		
	13	ファイルの操作			事前配布した資料を読む		
	14	ファイルの操作			事前配布した資料を読む		
	15	ファイルの操作			事前配布した資料を読む		
	16						
評価方法	(1)授業の中で演習課題を実施する。(2)定期試験(演習)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	演習課題	○	◎				30%
	定期試験	○	◎				70%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	Linux基礎						
科目名(英)	Linux basics						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	三屋 恵一郎		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	企業にてシステムエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年						
授業概要	Linuxのコマンドの仕様と使用方法を習得し、Linuxをコマンドラインで操作ができるようになる。 LPI Linux Essentials に合格する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				Linuxコマンドの仕様を理解し、実践できる。	
		○				コマンドラインでLinuxを操作できる。	
		○				LPI Linux Essentials に合格する。	
テキスト・教材 参考図書	Linux Essentials 合格テキスト&問題集(日本能率協会マネジメントセンター) ※テキストは、4月1日時点での予定						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	Linuxとは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	オープンソースの概念とライセンス			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	ディストリビューション			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	主要なオープンソースアプリケーション			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	コマンドライン操作の基礎			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	ヘルプの参照			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	ファイルとディレクトリの操作			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	テキストファイルの操作			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	アーカイブの作成			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	テキストエディタの操作			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	スクリプトの基本			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	PCリソースの利用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	ネットワークの利用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	Linuxのユーザーとグループ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	ファイルとディレクトリのパーミッション			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	※学習する内容・分野の順番は、4月1日時点での予定						
評価方法	定期試験にて評価を行う。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				100%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	システム構築Ⅱ					
科目名(英)	System construction Ⅱ					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	中西 伸二	
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	企業にてシステムエンジニアとして勤務	
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年					
授業概要	2年次に学んだシステム開発工程(計画・設計・実装・テスト)を実践する。 制作に関しては、Visual C# を使ったデスクトップアプリケーションか PHP を使ったWebアプリケーションのどちらかとし、最終的に開発したシステムのプレゼンテーションを行う。					
授業形式	講義: △	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				計画書、外部設計書を作成できる。
		○				設計書を元にプログラムを作成し、システムを構築できる。
	○	○				作成したシステムに対する適正なテストを実施できる。
	○					作成したシステムのプレゼンテーションが出来る。
テキスト・教材 参考図書	PowerPointにて作成した資料 Webサイト					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	計画書作成			授業内で終わらないときは授業外でも作成	
	2	計画書作成			授業内で終わらないときは授業外でも作成	
	3	工程表作成			授業内で終わらないときは授業外でも作成	
	4	外部設計書作成			授業内で終わらないときは授業外でも作成	
	5	外部設計書作成			授業内で終わらないときは授業外でも作成	
	6	外部設計書作成			授業内で終わらないときは授業外でも作成	
	7	外部設計書作成			授業内で終わらないときは授業外でも作成	
	8	プログラム作成			授業内で終わらないときは授業外でも作成	
	9	プログラム作成			授業内で終わらないときは授業外でも作成	
	10	プログラム作成			授業内で終わらないときは授業外でも作成	
	11	プログラム作成			授業内で終わらないときは授業外でも作成	
	12	中間発表			授業内で終わらないときは授業外でも作成	
	13	プログラム作成			授業内で終わらないときは授業外でも作成	
	14	プログラム作成			授業内で終わらないときは授業外でも作成	
	15	プログラム作成			授業内で終わらないときは授業外でも作成	
	16	プログラム作成			授業内で終わらないときは授業外でも作成	
	17	テスト仕様書作成			授業内で終わらないときは授業外でも作成	
	18	テスト実施			授業内で終わらないときは授業外でも作成	
	19	ドキュメント整理			授業内で終わらないときは授業外でも作成	
	20	発表準備			授業内で終わらないときは授業外でも作成	
	21	最終発表			授業内で終わらないときは授業外でも作成	
	22	最終発表			授業内で終わらないときは授業外でも作成	
	23	納品作業			授業内で終わらないときは授業外でも作成	
	※学習する内容・分野の順番は、4月1日時点での予定					

評価方法	最終発表を定期試験とし、制作した作品と合わせて評価を行う。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(最終発表)	○	◎		◎		50%
	成果物	◎	◎		◎		50%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	アプリケーション開発Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中西 伸二		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	企業にてシステムエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年						
授業概要	Pythonの基本文法・制御文・コレクション・関数・オブジェクト・モジュールなどプログラミングに必要な基礎知識を学習する。また、グラフや機械学習など多数存在する外部ライブラリの基本的な使い方を学習する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				Pythonの基本文法について理解し、プログラムが読める。	
		○				制御文を理解して、簡単なプログラムを作成できる。	
		○				モジュールを活用し、効率的なプログラムを作成できる。	
		○				外部ライブラリの利用方法を理解し、実践できる。	
テキスト・教材 参考図書	スッキリわかるPython入門(インプレス) ※テキストは、4月1日時点での予定						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	Pythonの基礎知識			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	式と演算			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	変数とデータ型			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	コレクション			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	コレクションの応用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	条件式			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	条件分岐			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	繰り返しの基本構造			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	繰り返しの制御			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	関数			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	関数の応用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	オブジェクト			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	モジュールの利用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	外部ライブラリの利用			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	まとめ			これまで学習した内容を整理しておくこと		
	※学習する内容・分野の順番は、4月1日時点での予定						
評価方法	定期試験と課題にて評価を行う。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				80%
	平常点(課題)		◎		◎		20%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	Webアプリケーション開発					
科目名(英)	Web system construction I					
単位数	5単位	時間数	76時間	担当者	三屋 恵一郎	
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	企業にてシステムエンジニアとして勤務	
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年					
授業概要	JavaによるWebアプリケーションの開発環境、実行環境について理解する。 サーブレットとJSPによるWebアプリケーションの開発手法の基礎を学習する。					
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				JavaによるWebアプリケーションのしくみを理解し、活用できる。
		○				サーブレット・JSPを使用してWebアプリケーションの開発ができる。
	○	○				スコープを理解して、サーブレット・JSP間のデータ連携ができる。
		○				データベースを利用したWebアプリケーションの開発ができる。
テキスト・教材 参考図書	スッキリわかるサーブレット&JSP入門(インプレス)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	JavaによるWebアプリケーション開発について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	HTMLとWebページ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	Webのしくみ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	サーブレットの基礎 - 1			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	サーブレットの基礎 - 2			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	サーブレットの基礎 - 3			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	サーブレット 演習 - 1			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	サーブレット 演習 - 2			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	JSPの基本 - 1			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	JSPの基本 - 2			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	JSPの基本 - 3			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	JSP 演習 - 1			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	JSP 演習 - 2			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	フォーム - 1			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	フォーム - 2			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	16	MVCモデルと処理の遷移			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	17	リクエストスコープ - 1			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	18	リクエストスコープ - 2			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	19	セッションスコープ - 1			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	20	セッションスコープ - 2			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	21	アプリケーションスコープ - 1			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	22	アプリケーションスコープ - 2			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	23	アプリケーション作成 - 1			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
24	アプリケーション作成 - 2			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		

	25	アプリケーション作成 - 3	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	26	アプリケーション作成 - 4	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	27	アプリケーション作成 - 5	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	28	サブレットクラスの実行のしくみとフィルタ - 1	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	29	サブレットクラスの実行のしくみとフィルタ - 2	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	30	アクションタグとEL式 - 1	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	31	アクションタグとEL式 - 2	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	32	アクションタグとEL式 - 3	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	33	JDBCプログラムとDAOパターン - 1	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	34	JDBCプログラムとDAOパターン - 2	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	35	JDBCプログラムとDAOパターン - 3	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	36	Webアプリケーションの設計 - 1	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	37	Webアプリケーションの設計 - 2	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	38	Webアプリケーションの設計 - 3	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
評価方法	定期試験にて評価を行う。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				100%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	一般教養ⅢA						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	佐藤 智子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年						
授業概要	社会人として必要な一般教養のうち、ITエンジニアとして特に重要な数学、国語、社会の知識を習得する。数学は中学卒業レベルの全範囲、国語は高校卒業レベルの読み書きと、就職試験に頻出されることわざ、熟語、文章読解、社会は重要時事について学習する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				就職試験に出るような数学の問題を解けるようになる	
	○	○				社会人として必要な国語の知識を付け、就職試験に出る国語の問題を解けるようになる	
	○					社会人として知っておきたい重要時事用語を理解し、説明会の内容が理解できるようになる	
テキスト・教材 参考図書	ASOミニテスト, 日経TEST公式テキスト&問題集 2019-20年版 ※テキストは、4月1日時点での予定						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	数学(計算問題), 国語(漢字読み書き)				時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	2	数学(計算問題), 国語(漢字読み書き), 時事				時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	3	数学(方程式と関数), 国語(同音異義語), 時事				時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	4	数学(文章題), 国語(漢字読み書き、慣用句)				時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	5	数学(文章題), 国語(漢字読み書き), 時事				時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	6	数学(文章題), 国語(漢字読み書き)				時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	7	数学(図形), 国語(慣用句), 時事				時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
	8	数学(図形), 国語(漢字読み書き、同音異義語)				時間内に理解できなかった点は復習し習得する。	
		※学習する分野の内容・順番は、4月1日時点での予定					
評価方法	定期試験と小テストにより評価を行う。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト	◎	○				20%
	定期試験	◎	○				80%
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	文章表現Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	青柳 七重		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	フリーランスとして 中日実務翻訳20年(中国語通訳案内士)		
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年						
授業概要	社会人として必要な文章を書く力を付け、自分の考えを簡潔に要点を押さえて書けるようになる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					簡潔・的確な文章を書くことができる	
	○					テーマに沿った作文が書ける	
テキスト・教材 参考図書	文章力の基本の基本(日本実業出版社) 文章力の基本(日本実業出版社) ※テキストは、4月1日時点での予定						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	文の基本形を作る。演習問題① 作文「5年後の自分」			課題が授業時間内に終わらない場合は 授業時間外で完成させる事		
	2	簡潔に書く(1) 作文「学校生活で得たもの」			課題が授業時間内に終わらない場合は 授業時間外で完成させる事		
	3	簡潔に書く(2) 演習問題 作文「自己PR文②」			課題が授業時間内に終わらない場合は 授業時間外で完成させる事		
	4	わかりやすく書く(1) 作文「最近のニュースで気になったこと」			課題が授業時間内に終わらない場合は 授業時間外で完成させる事		
	5	わかりやすく書く(2) 演習問題 作文:対比して書く(1)			課題が授業時間内に終わらない場合は 授業時間外で完成させる事		
	6	的確に書く(1) 作文:対比して書く(2)			課題が授業時間内に終わらない場合は 授業時間外で完成させる事		
	7	的確に書く(2) 演習問題 作文:対比して書く(3)			課題が授業時間内に終わらない場合は 授業時間外で完成させる事		
	8	共感を得る(1) 作文「最近読んだ本」			課題が授業時間内に終わらない場合は 授業時間外で完成させる事		
		※学習する分野の内容・順番は、4月1日時点での予定					
評価方法	授業で作成した作文で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	作文	◎			○		100%
履修上の注意	全授業回数の3分の2以上の出席を満たさないものは、評価しないものとする。						

科目名	就職実務Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	中西 伸二		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	企業にてシステムエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	システムエンジニア科 3年						
授業概要	社会人になるための意識を持ち、自分で考え、行動できるようになることで、就職活動に主体的に取り組めるようになる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				◎		受験したい企業を選定できるようになる	
		◎		○		SPI試験などの筆記試験対策に合格できるようになる	
	◎	◎		○		面接試験に合格できるようになり希望の企業に内定できる	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	就職に向けた準備(企業研究, 履歴書作成, 面接練習, 報告書作成)			今回までに指摘されたことは次回までに改善すること。活動状況をまとめておき報告できるように準備すること		
		.....					
	23	就職に向けた準備(企業研究, 履歴書作成, 面接練習, 報告書作成)			今回までに指摘されたことは次回までに改善すること。活動状況をまとめておき報告できるように準備すること		
評価方法	この講座では、点数による評価は行わない。 成績評価基準は、R評価のみとする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
履修上の注意	出席が講義回数の3分の2に満たない場合は、単位が取得不可能						